

「千歳サケのふるさと村教授会」
発足 25 周年を迎える活動の源

遊び心を大切に 自由な発想を



《千歳サケのふるさと村教授会》の皆さん
写真右から阿部一男さん(71)、福岡和世さん(74)、宮崎邦昭さん(72)
2017年から3年間、同会の会長を務めた阿部さんが3月に退任し、4月からは福岡さんが新しく会長に就任

サケ稚魚の放流体験を実施中。
詳細は水族館ホームページをご確認ください。

水

中観察窓では、サケの赤ちゃんが見ることが出来ますよ。千歳水族館を訪れた人に笑顔で案内を行うボランティア団体・《千歳サケのふるさと村教授会》の皆さん。オレンジ色のジャンパーを羽織り、館内の案内やイベントの補助など活動をサポートしています。10歳代から80歳代まで38人が在籍する同会の代表を3月まで務めていた阿部一男さん(写真右)にお話しを聞きました。

みなさんの活躍
紹介します

窓の 窓

私が、教授会に関わるようになったのは、25年前。初代木村館長の著書《鼻曲がりサケ談義》を読み、水族館や木村館長に興味を持ったのがきっかけでした。その後、仕事の都合で一時、千歳を離れましたが、2015年に活動を再開しました。
教授会として大切にしてい

ることは《楽しむこと》です。会員皆さんが、遊び心を持ち、自由な発想で活動しています。手芸が得意な方は、サモンの人形を手作りしたり、サケの皮でケリ(靴)を作るイベントを行ったりするなど自分の持っているスキルを存分に生かし、楽しみながら活動しています。今回の25周年記念誌もパソコンが得意な方が編集長を務めてくれました。一人一人が輝くことができる場所になっています。
魚や水族館が好きで、《教育》、《教育》を目的に参加する方がいるほか、最近では、《キョウヨウ(今日、用事がある)》、《キョウイク(今日、行くところがある)》という、活動そのものを楽しむ会員も増えてきました。
小学生のころに水族館に遊びに来ていた子どもたちが、高校生、大学生になり教授会に入り、活動していることが嬉しいですね。今後、進学や就職で千歳を離れても、サケと同じように、大きくなくなって戻ってきてほしいと思います。
「千歳水族館に来てよかったです。また来たい」と思っていただけののが会員共通の《喜び》です。そのために、今後とも笑顔で活動を続けていきたいと思えます。

第6回

町内会を元気にする

4つの視点

4つの視点に沿って町内会を元気にするヒントをご紹介します。
* 地域コミュニティの中心を担う町内会を元気にしていくためには、
①進め方、②活動、③組織運営、④情報発信の4つの視点が大事になります。

町内会のお悩み
会員のニーズがわからない
ビジョン(目指す姿)が必要

町内会のお悩み
町内会だけで活動するのは大変
地域への愛着が薄れている

1 進め方の
ヒント
プロセス
この表紙のページへ

2 活動の
ヒント
コンテンツ
この表紙のページへ

町内会のお悩み
役員の負担が大きい
引継ぎがうまくいかない

町内会のお悩み
町内会が知られていない
若い世代が必要性を感じていない

3 組織運営の
ヒント
マネジメント
この表紙のページへ

4 情報発信の
ヒント
インフォメーション
この表紙のページへ

※ヒント集の巻末に、様々な様式をまとめた参考資料があります。 序文-2

町内会連合会ホームページ



味のある方はぜひご覧ください。

冊子では、日ごろの町内会活動に役立つよう、「進め方」「活動」「組織運営」「情報発信」の4つの視点で、報告信」の4つの視点で、

平成30年度から市が実施している《町内会活性化支援事業》において、これまでの2年間の取り組みをまとめた《ヒント集》がこの度完成しました。
冊子では、日ごろの町内会活動に役立つよう、「進め方」「活動」「組織運営」「情報発信」の4つの視点で、



町内会活動 ヒント集が 完成しました!

